

# 「第5次江別市農業振興計画（案）」に対する市民意見募集の結果と市の考え方

令和6年2月  
江別市経済部農業振興課

## ■意見の募集結果

募集期間	令和5年12月4日～令和6年1月5日
提出者数	1人
提出件数	6件

## ■意見に対する考え方の区分

区分	意見の反映状況
A	意見を受けて案に反映するもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案に反映していないが、今後の参考等とするもの
D	案に反映しないもの
E	その他の意見

### ※特記事項

パブリックコメントの内容については、提出者の意見をできるだけ正確に表すため、人物を特定できるような固有名詞やご意見以外の記述を除き、可能な限り原文のとおり掲載しております。

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
1	<p>農業生産を維持発展させるため農地面積を縮小させない計画の推進管理は当然で、その確保は農業行政だけでなく、江別市の産業経済の発展と地域振興、都市づくりにおいても重要であることをもっとアピールすべきと考えます。</p> <p>また、農地基盤の整備においては、今後の食料の供給と需要の変化が見通され、全国的なコメ生産の縮小対応や、水田転作作物の連作障害防止や環境保全のため田と畑の相互利用が可能な水田としてその機能を維持充実させる整備の推進が必要であり、計画ではその視点が欠如しているのではないかと考えます。</p>	<p>農地面積の確保に係る重要性のアピールにつきまして、農地は食料生産の場のみならず、環境保全や景観形成、防災、自然教育など、様々な機能を有しております。このため、本計画においても、農地の集積・集約化等の促進による耕作放棄地の発生抑制や、持続可能な農村環境づくりなど、農地を保全する方向性を示すため、農地面積を維持する目標としております。</p> <p>江別市の産業経済の発展と地域振興、都市づくりにおける農地の重要性に関しましては、都市部から農村部へ人を呼び込むことを目的とした農村滞在型余暇活動機能整備計画などの関連計画とのバランスを取りつつ、生産者や地域の声を聞きながら江別市の農業振興にとって最適な農地利用の形態を模索し、農業委員会をはじめとする関係機関及び関係部署と連携し対応を進めてまいります。</p> <p>農地基盤の整備につきましては、農業行政を取り巻く環境の変化を踏まえながら、国、北海道、土地改良区等の関係機関と連携のうえ、計画的な農業生産基盤の維持・整備を推進していくこととしており、いただいたご意見につきましては、今後の関係者との協議の際の参考とさせていただきます。</p>	C
2	<p>都市近郊農業に固守する発想からか、これまでの江別市の基幹作物である稲作、酪農について今後の展開方向を示していないが、その生産性や品質の向上などで発展の可能性が大きく、江別市の農業生産でも今後もそのウエイトは大きいことから、取り組み姿勢を明確にすべきであると考えます。</p>	<p>江別市の農業は、かつては稲作や酪農が中心の土地利用型が主体でしたが、現在においては、国内の米需要の減少のほか、6次産業化や地産地消の推進など、農業を取り巻く情勢の変化に伴い、江別市の特徴である都市近郊という強みを生かした農畜産物の供給への転換が進んでいます。これまでの水稲や酪農に加えて、畑作・露地野菜・施設園芸・肉用牛・養鶏などの導入による複合化が進んでいることから、関係機関と連携して、新規農作物の導入や、多様な生産活動に対する技術指導・情報提供などの支援に努めてまいります。</p>	D

3	<p>37ページ水稻を畑作物としていることは間違いです、修正される必要があります。</p>	<p>37ページの表記に関しましては、水稻と畑作物を明確に分けるよう修正いたします。ご指摘いただきありがとうございました。</p>	A
4	<p>道外移出や輸出を考える農業生産への取組が見えない、周辺市町村との連携、広域農協体制、鉄道・空港・港湾・高速道路など移輸出条件の有利性などに着目した新しい戦略的な作物の導入を考えることが必要と考えます。</p>	<p>道外移出や輸出などの販路拡大を推進する取り組みにつきましては、商談会や研修会などの情報提供に努めるとともに、安全安心な農畜産物や商品のPRのほか、販売イベントなどの開催を支援していくほか、海外への販路拡大において優位性・必要性が認められる制度周知に努めてまいります。</p> <p>また、輸出に適した新しい戦略的な作物の導入につきましては、生産者の要望や生産者の団体である農業協同組合の意向を踏まえ、実需の動向に注視しながら、今後の課題として関係機関と連携し検討してまいります。</p>	C
5	<p>生産物の付加価値向上・地域への貢献のためには、農産物の生産だけではない加工・流通までの積極的取組が必要とされます。市内には町村農場や小林牧場のような先進事例があり、周辺市町村にも事例が多いことから農業の6次産業化には積極的な取組が必要と考えます。</p>	<p>6次産業化の推進につきましては、農業者一戸における経営面積が拡大し、労働力が不足していることから、農業者が積極的に取り組むことが難しい状況へと変わりつつあります。本計画案を審議している経済審議会においても、このような現状を踏まえ、推進に向けた課題についての議論がなされております。課題の解決に向け、農作業の省力化・効率化の支援や担い手確保の取組を進め、労働力不足の解消を図りつつ、これまで6次産業化に取り組んできた農業者や現在取り組んでいる農業者の意向を踏まえながら、都市と農村の交流センター「えみくる」内に整備したテストキッチンの利用や、市の補助金制度の活用などを促進してまいります。</p>	C
6	<p>この農業振興計画に意見や提案する江別市経済審議会の委員名簿と開催状況が添付されているが、当該審議会の市民公募委員の選考は恣意的で不公正であると指摘せざるを得ません。パブリックコメントして意見を提出するので公表を避けることなく、適切な対応を強く望みます。</p> <p>経済審議会の市民公募委員にはこれまで複数回応募し、納得できない非選考とされてきたが、今回は特に農業振興計画が審議されることが予定されていることを承知していたので、行政審議会等の経験とともに江別の農業振興に知見を有する市民として、適切な意見提案を行うため積極的に応募したにもかかわらず、落選にされたことは承知致しかねます。</p> <p>今回の公募選考に関して情報公開条例に基づき選考にかかる情報の公開を請求し、説明を求めたが、応募者3人中応募動機等は決してほかに劣るものではなく、他の審議会等委員に就任していることを理由に他の応募者より4倍の減点をする劣後評価という不当な選考基準により、一人だけを非選考となった。この選考は恣意的で不公正な選考といわざるを得ませんし、繰り返されてはならない。特に江別市の農業振興に重大な関心を持ち、有効な意見を述べるのが可能であった市民を無理やり落選として農業振興計画の議論を進めることは市民参加の上からも失政であると指摘せざるを得ません。今後このような経済審議会の市民公募が繰り返されないことを強く望みます。またこの意見が農業振興計画案にかかるパブリックコメントの公表から削除されるようなことがあってはならないので申し添えます。</p>	<p>第5次農業振興計画（案）の内容に対するご意見以外であることから、その他の意見として承り、担当部署と情報共有いたします。</p>	E